一般受託製造産業欄

売上高150億円が射程に

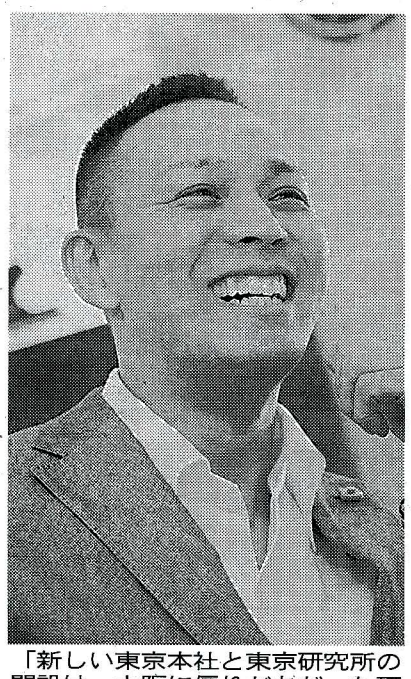
山添隆・コスモビューティー社長語る

中国売上高2割に拡大

11月にベトナム第2工場　中国新工場は10月竣工

9割が基礎化粧品

化粧品・医薬部外品OEM業界の有力社であるコスモビューティーの山添隆社長は8月21日（金）、東京・虎ノ門の城山トラストタワーで本紙の取材に応じ、同社の現況、建設中の海外工場の進捗状況、新たな投資計画、今後の方針について縦横に語った（聞き手は川口副編集長）。



「新しい東京本社と東京研究所の開設は、大阪に偏りがちだった研究員の採用を東京方面でも増やしていきたいというねらいもある」と語る山添社長。

東京・成増に新本社・研究所

――9月中間期の業績見通しや最近の受注傾向は。

「当社は3月期決算で、今期は売上高で150億円が目標。現段階で直近の試算では昨対比7―8%アップで推移している。最近の傾向として、極めて安価なマーケットの商品については海外からの資材や原料が為替による影響を受けやすいこともあり、対応が難しくなってきている。当社では現状、ついていけないマーケットは戦略的に追いかけない方針だ。そういう意味では落とした部分もある。ただ、落とした分をカバーし、それ以上に伸びたのが中国向け製品の売り上げだ。9割が基礎化粧品で、前期の中国向け売上高は1割程度だったが今期は約2割まで拡大してきている」

――中国向け商品のクライアント層は。

「ほぼ100%が中国のローカル企業で、工場も研究所も持たないブランドメーカーさんだ。そうした層に提案活動を行い、処方開発し、日本で製造、輸出し、現地で非常に人気を集めている。つまり、中国で我々が展開している事業も、日本で我々が行っているOEMと何ら変わらない」

――中国では新工場のオープンを控えているが。

「いよいよこの10月に中国工場がオープン、また、11月にはベトナムでも第2工場が竣工する。中国工場は中国内需向けの工場。日本で我々が行っている提案型OEMのビジネスモデルを展開する。研究員は日本からも派遣するつもりでいるが、営業マンは全員中国人になると思う。また、中国工場とベトナム工場はともに日本の大手ゼネコンに施工をお願いし、完全にGMPに準拠した医薬品製造水準の、日本の化粧品工場を上回るほどのグレードの環境が構築される。単純にモノをつくるだけであればオーバースペックだと思うが、当社としてはやはり、お客様に工場を見て頂いた時に納得して安心して頂ける工場にしておきたいという考えがある。特にベトナムの工場は、マーケットが日本市場であるため、やはり日本のお客様に安心してモノづくりを任せて頂ける工場でありたいと思う」

――新しい設備投資計画や社内機構の改変計画は。

「このたび当社は業容拡大に伴い、東京本社を東京・成増に移転する。同時に研究所も併設し、東京本社・東京研究所として9月24日（木）より営業を開始する。新東京本社へのアクセスは、地下鉄成増駅出口より徒歩1分。研究所と営業部隊、総務部隊などが広さ約200坪のワンフロアに一堂に会する大阪本社のような環境になる」

――東京本社に研究所を併設した理由は。

「やはり研究、営業、企画というものは、三位一体でなければクライアントに対するサービスが成り立たないと我々は考えているからだ。大阪本社のようなスピード感のある対応を東京でも行っていく。また、ここにきて東京本社と大阪本社の売上高がほぼ一緒になってきたということもあり、大阪に偏りがちだった研究員を東京方面でも増やしていきたいという狙いもある。これまで関東の研究所は埼玉の工場内にしかなく、都内からの通勤に難があった。しかし、成増に研究所があれば、地下鉄副都心線・有楽町線によって、埼玉北西部から都心、さらに横浜圏内も通勤圏内に入る。東京～横浜圏の研究員を採用する一つの枠としての必要性も感じ、幸い良い物件が得られたので即決した」

――そのほかの設備投資計画は。

「今年の4月、関東工場の近くに物流倉庫（小川倉庫）を新設した。これにより海外を含めた当社全工場の総敷地面積は5万6000㎡超と、東京ドーム（約4万6000㎡）が丸々収まる大きさになった。このほか、年内～来年にかけて関東工場を増設する計画がある。投資予定額は約5億円で、将来を見据えた形での製造キャパシティの拡大が主たる目的だ」

――現在、社内的に取り組み強化していることは。

「今期は、『三本の矢』を投げている。一つ目の矢は『新規商品・市場の開拓』で言葉通り。2つ目の矢は『現有の仕組み・体制の拡充』。これは、いま我々が有する仕組みや資産をいかに活用していくかということ。最後の矢は、メーカーとしては当然のこと、しかし非常に重要である『生産・品質保証の強化』だ。今期はこうした三本の矢を投げると共に、それぞれを大分類し、何を行っていくかというロジックツリーを作った。この中で達成する今期のプロジェクトは全部で60個ある。細かい説明は省くが、その一つずつが、新しくかつ非常に手の込んだ内容になっていると思う。なお、全てのプロジェクトにはKPI（重要業績評価指標）を設定してあるので、当然結果を求めて行くが、『決めたから、やらなアカン』ではなく、間違ったら速やかに方向修正できることも重要視している」

――また、私が社長に就任した初年度ということもあり、少し新しい取り組みをしていこうということで、今年に入ってから会社理念を刷新した。社員皆が共通の考え方とかそういうものをもう一度きっちり持ってやっていこうということで、特に重視しているのがモラルだ。コンプライアンス等を含め、社会的な正義は何かということを重視し、営業活動においても、やはり既存のお客さんに対して利益相反になるようなことは行わないし、場合によってはお断りすることも結果的に我々に対する信用に繋がると考えている。法律論ではなく、あくまでも我々がお客様に対してどのような商道徳を重んじて行くのかという自分たちの価値判断に基づいて品位ある行動をとり、品位ある商品を提供、お客様に新しい価値を創造し、それを社員の幸せにしていきたい」

「産地限定原料」紹介へ

ホシケミカルズ　9月7日から有明で

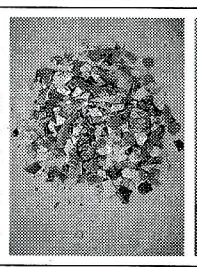
ホシケミカルズ（東京都千代田区神田東松下町、03―3254―9591、川島勝郎社長）は、9月7日（月）～9日（水）に東京・有明の東京ビッグサイトで開かれるダイエット&ビューティフェア2015（主催・UBMメディア）に出展する。

今回が同展示会初出展となる同社は、日本各地の自然素材・農産物を原料化した「産地限定原料」の一覧を紹介するほか、その中から特徴的なものを10種類前後ピックアップし来場者が手に取れるように展示する。また、実際の化粧品処方化も行い、さらに商品を販売するイメージを想起しやすいようBtoCを意識したパッケージまで付属した完成品に近い形での提案も行う。「当社は、北は北海道、南は沖縄まで、日本各地の固有の素材を使った地域の化粧品づくりを長年お手伝いしており、そうして作った化粧品がバラエティショップ等でブレイクするなど、実績が増えてきている。地域化粧品づくりのノウハウで、あらためて化粧品で地域の活性化・振興に貢献できればと考えている」（川島社長）。

また、同展示会で特別企画として行われる、地方発の美容アイテムからアワードを選出する「ジャパンメイドビューティアワード2015」に同社が手掛けた製品も出品される模様。

廃プラ材を再利用

平和化学工業所　使用30%超　リサイクルボトルを開発



平和化学工業所（千葉県市川市原木、047―328―3531）は、8月20日（木）、工場で廃棄せざるを得なくなったプラスチック原料＝写真左＝を再利用しながらも、ボトルとしての付加価値を損なわないリサイクルボトル＝写真右＝の開発に成功したことを明らかにした。

今回同社が開発したボトルは、リサイクルしたプラスチックをバージン材（未使用プラスチック）でサンドイッチのように挟んで成形したもの。これによりリサイクル材が内容物に接触しないため、リサイクル材を使用しないオールバージン材のボトルと同様に使用可能だという。

同社によればリサイクル材を使ったボトルは特にアメリカではカリフォルニア州が先導する形（RPPC規制・約240ミリリットル～19ミリリットルの硬質プラスチック容器におけるリサイクル材の使用率25%以上などを定めたもの。シャンプーなどのヘアケア製品、洗剤、消臭剤などが対象。違反した場合には罰則・罰金も。FDA管轄の医薬品・化粧品・食品・飲料などは対象外）で先行しており、同国では大手メーカーを中心にリサイクル材使用ボトルへの転換が進んでいるという。

同社は、特殊なシュリンクフィルムでリサイクルボトルを包装、見た目にもバージン材を使ったボトルと遜色ない仕上がりを実現した。

「現状で、リサイクル材の使用率は10%～50%超まで成功した。容器の世界ではリサイクル材を使ったものはまだまだこれから。当社はリサイクルボトルを可能にする特殊な成型機とシュリンクフィルム装置も導入しており、今後リサイクルをうまく行える仕組みもご提案できればと考えている」（畠山常務）。

平和化学工業所は植物由来（サトウキビ、トウモロコシ、資源米）樹脂を使用した「バイオマスボトル・キャップ」の開発など、食品や化粧品用樹脂容器などブロー成型の新しい用途開発を行う中空ブロー成形の専門メーカー。

粧品原料を連打

ベビーコラーゲン

彩産スイカエキス

アテロコラーゲンを、相溶性を高めるためにミリストイル・サクシニル化した機能性コラーゲン。肌なじみの良さに加えて水分保持力が高いのが特徴。コラーゲン特有のベタツキがなくさらっとした使用感で、洗顔フォームやシャンプーなどの処方に配合する際には、泡もちのよさや泡の安定たもの。抗炎症効果、抗糖化効果、抗酸化効果、細胞増殖作用、皮膚改善（滑らかさ、乾燥度）効果など数多くのスキンケア効果を確認。特に抗糖化、抗酸化効果があることから、エイジングケア化粧品への配合を推奨できるという。

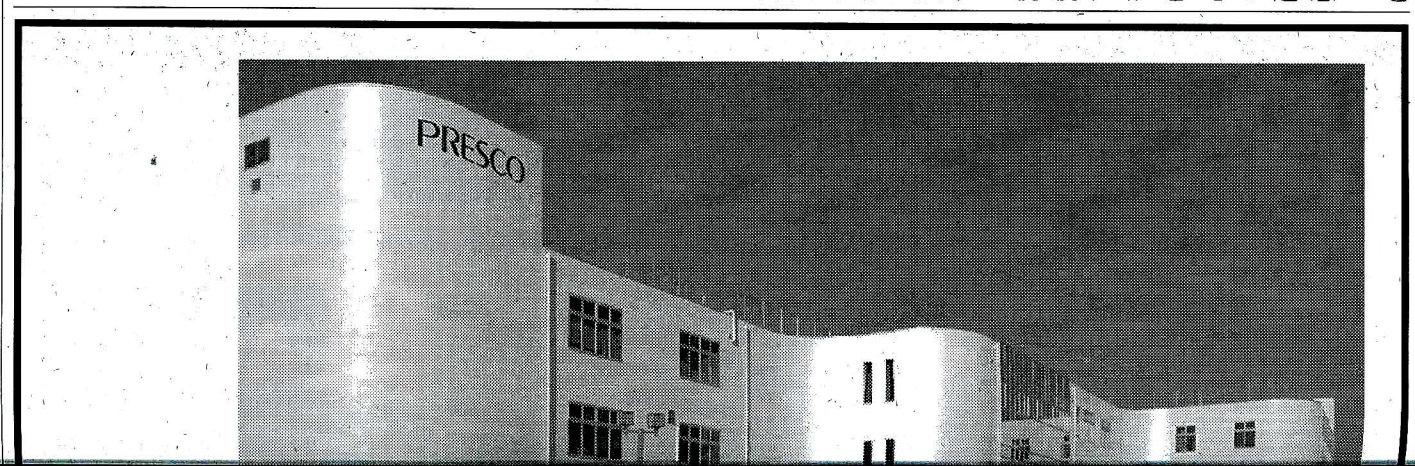
「当社はかねてから、トレーサビリティーの高い産

みませんか

提供し、
製品のご提案をして参ります

スキンケア・ヘアケア化粧品受託製造
粧品・自動車用品・工業用品・その他

社　エアゾール事業部

千葉工場:
〒270-1406　白井市中74-4（白井工業団地内）
電話 047-492-0127　FAX 047-491-3789

愛用される製品を提供し、信頼されています